

鉄筋溶接継手工法

現場用写真管理撮影手順（例）

写真管理については工区別、施工日別、施工班別等の定めはありません。

あくまでも参考例として御使用ください。

鉄筋溶接継手工法 写真管理撮影例 (①溶接継手 現場施工編)

鉄筋溶接継手施工時の写真管理（例）を以下に記載します。

順番	黒板記入例	説明	
①	鉄筋溶接継手工法 溶接施工前 鉄筋端面処理状況 〇〇工区△△箇所 D-〇〇+D-〇〇	工場出荷での端面を基本としているが錆、泥、ペースト除去を行なっている写真を撮影すれば尚良い	
②	鉄筋溶接継手工法 溶接施工前 冶具取付状況	溶接個所が判るよう風景を入れて撮影。 溶接施工前で冶具をセットした写真を撮影。	
③	ルート間隔確認	溶接前の冶具固定した写真。ルートゲージを使用し て撮影する。	
④	ルート間隔確認	ルートゲージ等を使用した アップ写真	
⑤	溶接状況	溶接作業中を撮影。 無風時でも突然の風を考慮 して風除け等を使用する。	
⑥	溶接完了	溶接冶具を外した後に全体 が判るよう撮影。	
⑦	裏当て材 色別確認	確認プレートか裏当て材を 使用して裏面より焼色確認 の写真を撮影する。	

鉄筋溶接継手工法 写真管理撮影例 (②超音波探傷試験 UT 検査編)

品質管理例、写真管理（例）を以下に記載します。

参考文献

建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事 2018

日本鉄筋継手協会規格 JRJS0005

鉄筋溶接継手工法 標準仕様書

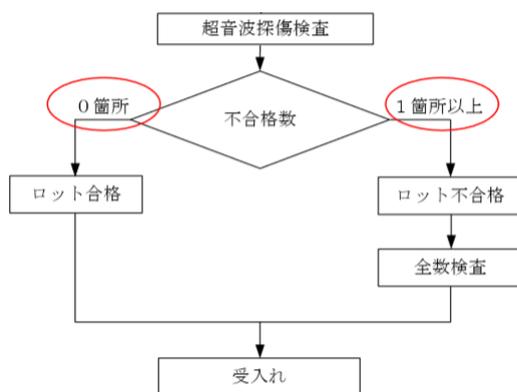
①検査レベルの明示

継手箇所の A 級継手性能の必要箇所か否かにより検査方法が異なります。

A 級性能が必要な部位

材端域、全数継手箇所等

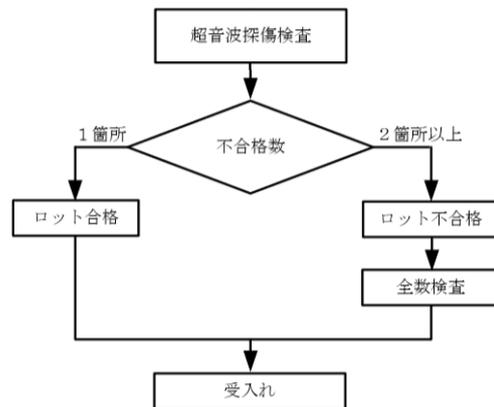
基準レベルを基準の-20db 以下



A 級性能が必要でない部位

在来継手箇所、ちどり継手箇所等

基準レベルを基準の-18db 以下



○日本鉄筋継手協会規格 JRJS0005 参照

※当工法は自主的に-24db と定めていますが上記を参照していただいても問題ありません。

②超音波探傷検査実施状況

現場での検査実施状況を記録します。

③検査会社、検査員、資格書 No の明示

④検査報告書と合わせて管理

超音波探傷検査会社の報告書、自主管理表と併せて品質管理書類として御使用ください。

鉄筋溶接継手工法 写真管理撮影例 (③引張試験用テストピース抜き取り編)

引張試験等のテストピース抜き取り時に於ける写真管理(例)を以下に記載します。

順番	黒板記入例	説明	
①	抜き取り前状況 ○○工区△△箇所 D-○○+D-○○	全体が判るよう撮影。 抜き取る試験片を明示しておけば尚良い。	
②	抜き取り切断状況	冷間鉄筋切断機使用等、 切断機名称も記入しておけば尚良い。	
③	抜き取り完了	抜き取った箇所が判るよう に撮影。抜き取った試験片も置いておけば尚良い。	
④	再溶接前溶接治具固定状況	再溶接前の治具固定した 写真。ルート間隔も撮影すれば尚良い。	
⑤	再溶接状況	再溶接作業中を撮影。 無風時でも突然の風を考慮して風除け等を使用する。	
⑥	再溶接完了	溶接治具を外した後に全体が判るよう撮影。 抜き取った箇所を明示しておけば尚良い。	

引張試験の試験報告書、自主管理表と併せて品質管理書類として御使用ください。

鉄筋溶接継手工法 写真管理撮影例 (④溶接継手作業完了時)

溶接作業完了後の写真管理(例)を以下に記載します。

黒板記入例 鉄筋溶接継手工法 溶接技能者資格確認 氏名 溶接 太郎 資格 No. A00100Z 施工日 年 月 日	全体で写真 溶接技能者、黒板、資格書 を共に撮影。	
	資格証をアップで撮影。	
鉄筋溶接継手工法 溶接技能者資格確認 氏名 溶接 太郎 資格 No. A00100Z テストピース SD000 D-00+D-00 本 施工日 年 月 日	抜き取りをした場合は 試験材と黒板で撮影。	